

《概要版》

# エイジフレンドリーシティ 宝塚行動計画

「お互いさま」があふれるまち・宝塚

～あらゆる世代が、お互いの存在を認め合い、支え合い  
将来につながる地域社会を創造する～



宝塚市

## エイジフレンドリーシティってなに？

エイジフレンドリーシティは、WHO（世界保健機関）が、平成 19 年（2007 年）に世界的な高齢化と都市化に対応するため提唱したプロジェクトです。都市のハードやシステムを高齢化に対応させる、高齢者が社会に参加し社会を支える側にまわるの2つの観点から、高齢者にやさしいまちづくりを推進しようとする取組です。

## なぜ宝塚市が取り組むの？

大阪や神戸のベッドタウンとして発展した宝塚市は、昭和 40 年代に人口急増期を経験し、住宅の多くが山手に立地しています。開発されたニュータウンは時とともに高齢化し、人口減少、交通の問題、買い物の問題などを抱えています。全ての市民が高齢になってもいきいきと暮らすことができる都市は、誰にでもやさしい都市であると考え、「あらゆる世代が、お互いの存在を認め合い、支え合い、将来につながる地域社会を創造する」ことを目指し、エイジフレンドリーシティの実現に取り組めます。

### 宝塚市の人口ピラミッドの変化



### 宝塚市の1日

ひと昔前は1日6.1人が生まれ 3.8人が亡くなっていました。 → 今は1日4.7人が生まれ 5.5人が亡くなっています。

ひと昔前に当たる平成12年（2000年）の年間出生数は2,248人、死亡者数は1,407人。亡くなる人より生まれる人が多い時代でした。今に当たる平成27年（2015年）の年間出生数は1,742人、死亡者数は2,033人。今後も生まれる人より亡くなる人が増える見込みです。


## 誰が取り組むの？

市民、事業者等、行政が協働で「高齢者にやさしいまちづくり」を通じた「あらゆる世代にやさしいまちづくり」に取り組めます。

## 計画の期間は？

本行動計画は、『第5次宝塚市総合計画 後期基本計画』などとの整合性を図りながら、WHOが定める5年間の行動計画のサイクルによりその進捗管理を行います。第1期計画に限っては、平成28年度（2016年度）を計画策定などのための準備期間と市民へ周知するための啓発活動の期間とし、計画の推進期間を平成29年度（2017年度）から平成32年度（2020年度）までの4年間とします。

	(年度)				
	平成28 (2016)	平成29 (2017)	平成30 (2018)	平成31 (2019)	平成32 (2020)
エイジフレンドリーシティ宝塚 行動計画	▨	→			
第5次宝塚市総合計画 後期計画	→				

 計画策定などのための準備期間と市民へ周知するための啓発活動の期間

## 計画のめざすものは？

「お互いさま」があふれるまちづくりです。

単に、見守る人と見守られる人、助ける人と助けられる人という関係ではなく、そこに住む誰もが、自分に出来ることを通じてみんなが安心・安全に生き続けることができる「地域づくり」や「支え合い」を育みたいと考えています。

気軽に声をかけることから始まります。

ご近所で挨拶することも大切です。



世代間交流

子育てを通してつながりが生まれます。



おばあちゃんに、  
木の名前を  
教えてもらったよ

公園アドプトに  
参加して  
毎日楽しいわ！

お出かけできて  
皆さん、  
本当に嬉しそう！

送迎サービスのおかげで  
気軽に外出できて、  
生活が広がります

見回りのウォーキングは  
健康にも良いね

誰でも安心して  
利用できるトイレ  
これなら外出先でも  
心配ないね

ご近所パトロールは  
生活の一部です

エイジフレンドリーシティ宝塚が  
めざすもの

宝塚市においても、  
この8つの分野の取り組みを通じて、  
「エイジフレンドリーシティ宝塚」の  
実現を目指します。



第1分野

建物と屋外スペース

第2分野

交通機関

第8分野

医療・保健・  
福祉サービス

「お互いさま」があふれるまち・宝塚

～あらゆる世代が、お互いの存在を認め合い、支え合い  
将来につながる地域社会を創造する～

第7分野

コミュニケーション  
と情報

1

人にやさしい環境が  
整備されているまち  
宝塚

分野：1・2・3

2

自分らしさが守られ、  
安全で安心して  
住めるまち宝塚

分野：5・7・8

3

仕事や社会貢献など、  
誰もが社会と関わりながら  
生きていけるまち宝塚

分野：4・6

第3分野

住まい

第6分野

市民参加と就労

第4分野


社会参加

第5分野


差別や偏見の解消




エイジフレンドリーシティ宝塚では、  
物理的環境として「建物と屋外スペース」「交通機関」「住まい」の3つの分野、  
社会的環境として「社会参加」「差別や偏見の解消」「市民参加と就労」「コミュニケーションと情報」  
「医療・保健・福祉サービス」の5つの分野での検討を提案しています。




外出先でも情報が  
受けとれるなんて  
便利だね



ボランティアで  
昔の遊びを教えています  
とっても楽しいわ



一人暮らしでも  
こころよく  
仲間にあえて嬉しいわ




一斉清掃は  
ご近所さんと親しくなる  
チャンスね




健康づくりで  
友達づくり！




みんなの公園、  
ポイ捨てはダメだよ



人生これから！  
健康第一ね



大丈夫です！  
健診はかかさず



いつまでも  
働ける機会があるのは  
ステキなことね

本行動計画を実際に推進していくためには、「協働」の視点に立つ必要があり、行政の立場からは、庁内横断的に以下の取組を進めていきます。

#### 1 市民の意識・意見の尊重・理解に努める

WHOにおいては、当事者の考えを聞きながら推進することを重要視しています。本市の行動計画においても市民の声に耳を傾け、計画を推進します。

計画のための具体的なデータとして、行政が実施する市民アンケート結果を活用します。また、エイジフレンドリーシティに関する啓発を行うとともに、職員が積極的に地域に出かけ、市民との対話を推進し、互いに理解を深め、市民の知恵と力によるエイジフレンドリーシティの実現を目指します。

#### 2 市民や事業者などと協働による取組を推進する

本行動計画は行政のみによる取組ではなく、市民、各種団体、事業者など、宝塚に住み、働き、学ぶ全ての人たちの協働の力で達成することを目的としています。日常的には、それぞれの領域の中で活動が行われているため、お互いの交流が行われている機会は多くありません。

そこで、行政は全体を見渡しながら、気軽に参加できる場や機会をつくり、多様な主体との協働による取組を推進し、奨励します。

#### 3 ひと・場所・お金・情報の支援体制を整える

本行動計画を協働によって実践していくためには、ひと・場所・お金・情報が必要です。

現在、市民、各種団体、事業者、行政などが多くの既存資源を持っています。今後、より多くの市民に活躍してもらうために、さらなる有効活用を図る必要があります。

行政は、行動計画を実行に移すため、ひと・場所・お金・情報がより効果的に活用できるよう支援体制を整えます。

#### 4 宝塚市の将来に向けた持続的発展の実現に寄与する

本行動計画は、現在だけでなく、ますます少子高齢化が予測されている将来において、本市で生活する人たちのQOL(生活の質)が守られ、市全体として発展し持続していくことに寄与するものとして取り組みます。

宝塚市 健康福祉部 安心ネットワーク推進室 地域福祉課

〒665-8665 宝塚市東洋町1番1号 本庁1階

電話：0797-77-0653 ファクス：0797-71-1355

<http://www.city.takarazuka.hyogo.jp>